

小學校から幼稚園への希望

東京女子高等師範學校附屬小學校主事代理

堀 七 藏

一、子供の生活

幼稚園に於ける幼児の生活が成るべく子供らしくありたいと思ふのであります。御承知の如く子供には大人と著しく異つた特性があります。活動性に富み物の五分間と静止してゐることが出来ません。それを大人のやうにお行儀よく躰けんとするのは甚だ面白くないと思ひます。小學校でも幼稚園でも幼児を大人の如く行儀よく生活せしめんと企てることは禁物であると思ひます。また幼児は變化を好みます。單調なものにすぐに倦いて長く一つの物を見たり聞いたりして居る事は出来ません。それを大人の如く一事物に専心させやうと望むことも小兒の本性を無視した取扱ひと考へます。それで私は幼児には大人の生活を無理強ひせず、子供の生活を成るべく長くさせることが肝要であると考へてゐます。

二、作業の尊重

小學校の如くいろいろの知識を授けることを幼稚園の仕事と考へたくない。幼稚園では幼児の活動性を利用し打つこと撫づることを好む特性に基いて手足を動かす作業を盛に課することが必要だと思ひます。その間にいろいろの事物の明白なる觀念を得、身體は強健となるのであります。

三、自然物の玩具

幼児が作業する時に必要とする材料は人工的のものよりも自然物がよい。いろいろの出来上つた玩具を與へるよりも、棒切れや板屑や小石・砂・泥又は木葉等、いろいろの自然物を材料として活動し作業するやうになりたい。それ等自然物を取扱ふ間に數量の觀念は自然に發達し、事物の觀念は明白となるのであります。いちぢるな、こわすな、ながめて居れといふが如き玩具は須らく幼稚園から排斥したいと私は考へてゐる位であります。

四、根掘り葉掘り聞く

物を穿鑿して色々なことを根掘り葉掘り細かく聞きたがるのは幼児の本性であります。之を利用し發展せしむることは幼稚園に於て誠に重要であります。私は幼児にいろいろの事柄や文字文章などを強ひて教へる必要がないと思つて居りますが幼児が疑問を起している／＼の事柄を尋ねるならば相當に之を取扱ふことが大切であると思へます。いろいろの事を幼児が尋ねるので父母や教師が之を面倒としてよいかげんの返事をしたり誤魔化したりすることは感心出来ません。成るべくその疑問を幼児自身が事物を観察して解決するやうにヒントを與へることが肝要であると思へます。それで私は幼稚園の教科書は自然物自然現象である。之をよく観察せしめ之を利用している／＼の作業をなさしむることが幼稚園の主要なる任務とさへ考へてゐます。而して幼児の疑問はその課程であると信じてゐます。幼稚園で文字を教へる必要は殆どありません。また抽象的な計算を特に教へる必要もない。幼児が生活の必要上よりいろいろの疑問を起して自發的に研究せんとするな

らば之を無理に抑へることの不都合は勿論であります。

五、破壊を好む

幼児はその本能として事物を破壊することを喜ぶのであります。どんぼの翅を千切つたりイナゴの脚をムシつて喜ぶのは幼児が有する本能であります。之を真正面から抑壓し幼児をしかり飛ばすことは面白くない。之を善用してやらねばならぬ。このことは幼稚園に於ける訓練上主要なことであると思へます。

六、模倣性の利用

幼児が模倣性に富むことは今更説明するまでもありませんからこの時代に於て父母教師は努めて善良なる模範を示さねばならぬ。成るべくならば同年齢者の良模範を利用せねばならぬ。言語でも動作でもこの時代に充分注意せねばならぬであります。私共が小學校に入つた児童を見て常に感ずることはない／＼の文字を知つてゐるものでも甚だ發音が不明瞭である事であります。幼稚園の保育に於て正しき

發音をなさしむるやう指導することが非常に肝要であります。

要するに私は幼稚園が小學校の教育の下への延長であるといふ考を取除きたいと考へます。勿論幼稚園に於て良好なる保育を受けたものは小學校に入學しても充分その智能を啓發し得るのでありますが、小學校時代に容易に修得せられる知識を豊富に教授することを任務と考へてはならぬ。幼稚園はどこまでも幼児の生活を充分になさしむる工夫が肝要であると考へます。

單純と無邪氣とを基礎とする智識と力とは如何なる地位に在る人に對しても、あらゆる轆轤落魄の子に對しても、地位向上の爲にかくべからざるものたると同時に又十二分の惠福なり。

(メスタロツチ)

奴隸の幸福を超脱し、神々と

崇拜より解脱し畏なく、怖ろしく、偉大にして孤獨。

之實に誠者の意志なり。

(ニイチエー)